ちょっとブレイクしませんか?

第28回 マッキー 【2012年 インド】

イソップ寓話集に「鷲とセンチコガネ」と題する小話がある。鷲が兎を追っていた。兎は助けてくれる者とてなかったが、ただひとつ、センチコガネを見つけたのを幸い、これに救いを求めた。センチコガネは兎を励まし、鷲が近づいてくるのを見ると、救いを求めて来た者を連れ去ってくれるな、と頼んだ。それなのに鷲は、センチコガネの小さいのを侮(あなど)って、目の前で兎を平らげてしまった。それ以来、センチコガネは恨みを忘れず、鷲の巣を見張り続けて、鷲が卵を生もうものなら、飛んで行って、卵を落として割ってやった。どこへ行っても追い出されるので、とうとう鷲はゼウスの所へ逃げこんで、安全な巣造りの場所をお願いした。鷲はゼウスの使わし婢(はしため)であったのだ。ゼウスは自分の懐で卵を生むことを鷲に許したが、それを見ていたセンチコガネ、糞団子(くそだんご)を作るなり飛びたって、ゼウスの懐の真上に来ると、ポトリと落とした。ゼウスは糞を振り払おうと立ち上がったとたん、うっかり卵を落としてしまった、これ以来、センチコガネの出る季節には、鷲は卵を造らないということだ。

今回紹介する映画は「マッキー」（インド　２０１２年）という奇想天外とも云える作品だ。世界第二位の人口大国インドはハリウッドの4倍の作品数が量産され、ボリウッドの名に象徴されるほど映画が熱い。しかも銀幕には飛び切りの美男美女が次々と登場する。本作はインド映画史上世界興収で1位を記録した。粗筋は、建設会社経営者スディープは気に入らない奴は殺すという手口で大金を荒稼ぎする強欲な野心家にしてマフィアのドン。一方、お調子者の貧乏青年ジャニは、向かいに住んでいる美人のビンドゥに2年前から片想い中。ジャニはあの手この手でアピールを続けているが、会話すらろくにしてもらえない。しかしビンドゥも、内心ではジャニのことを想っていた。ある日ビンドゥの美しさに魅了されたスディープは、ビンドゥがジャニに惹かれていて自分のことなど目に入ってないことを恨み、ジャニは誘拐され、撲殺されてしまう。ところが不思議な力によって、死んだジャニの魂はなんと一匹のハエに生まれ変わった。ハエになったジャニは愛するビンドゥを守るため、憎きスディープに復讐するため、小さな体で人間との戦いに挑む。果たして、か弱き乙女と小さなハエが、マフィアの親分に勝てるのか。作品の顛末は、DVDをご覧になってのお楽しみだ。

屈辱と復讐を小さな蠅に託した「マッキー」はCGを駆使したリアルな映像で、最後まで引き込まれる。ボリウッドは確実に進化している。イソップ寓話は「踏みつけにされていつか仇うちができないほど無力な者はない」という喩だ。強者が弱者を踏みつける強者もとんだしっぺ返しに会う。まさに「一寸の虫にも五分の魂」。人の上に立つ人間は日頃の言動に心しなくてはいけない。

粥川(かゆかわ)　裕平(ゆうへい)
（精神科医･映画評論家）
名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長